



10月のほけんだより

平成27年 第177号



呉市役所

子育て施設課

0823-25-3144

弱視に気をつけて

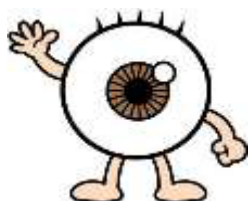
◎ 「弱視」は目の発達が止まった状態です。

子どもの目は、ものを見ることを繰り返して発達していきます。しかし、6・7歳頃までの間に目の病気やケガ、異常が原因でものを見る訓練ができなかった場合、目の発達が阻まれてしまいます。こうして視力の発達が止まった状態を弱視といいます。片方の目だけが弱視になることも多く、ほとんどの子どもが自分で気づくことができません。



◎ 早期発見が何よりも大切です。

弱視の出現率は、人口の1.5～2%といわれています。早期に発見し、適切な治療を行えば、治る可能性は高まります。しかし、目の発達期である6・7歳頃を過ぎると、治癒率がさらに下がり、回復できない可能性が高まります。



呉市では、3歳児健診で視力検査を行っていますが、健診の案内と一緒に、目に関するアンケートと自宅で行える視力検査を郵送しています。健診日に持参してください。検診当日までにできなくても一度はチャレンジしてみてください。

3歳児健診で検査を行っている場合でも、短時間で弱視を確実に見つけるのは困難です。

C ご家庭でも弱視のチェックをしてみましょう。



方法としては、まずカレンダーなどの目標物から3メートルほど離れて立ち、清潔なティッシュなどで片目を押さえます。そしておうちのかたが左右の見え方に差がないかをチェックしてみてください。もし見え方に差があるようでしたら、弱視の可能性が 있습니다。3歳児健診を受けられたかたも、受けられていないかたも、ぜひやってみてください。

C こんな様子が見られたら弱視の可能性が・・・

見えづらいことがあっても、お子さんは違和感としてとらえられず、おうちのかたに訴えない場合があります。お子さんのふだんの様子を振り返って、弱視の可能性をチェックしてみてください。



- 1 見え方のチェックの結果が左右で大きく違う。
- 2 片目を隠すのをいやがる。
- 3 首を曲げたり頭を傾けたりして見ることがある。
- 4 テレビを見るときや視力をチェックするときに近づいて見ようとする。
- 5 目を細めるなど見えにくそうにする。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>